

2009年度第1四半期 決算説明資料

株式会社太陽工機

2009年7月27日

将来予測について

◆当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。

なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、主に以下のものが含まれます。

- 為替相場の変動
- 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当社が営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ

決算概要

受注悪化を受け減収・減益

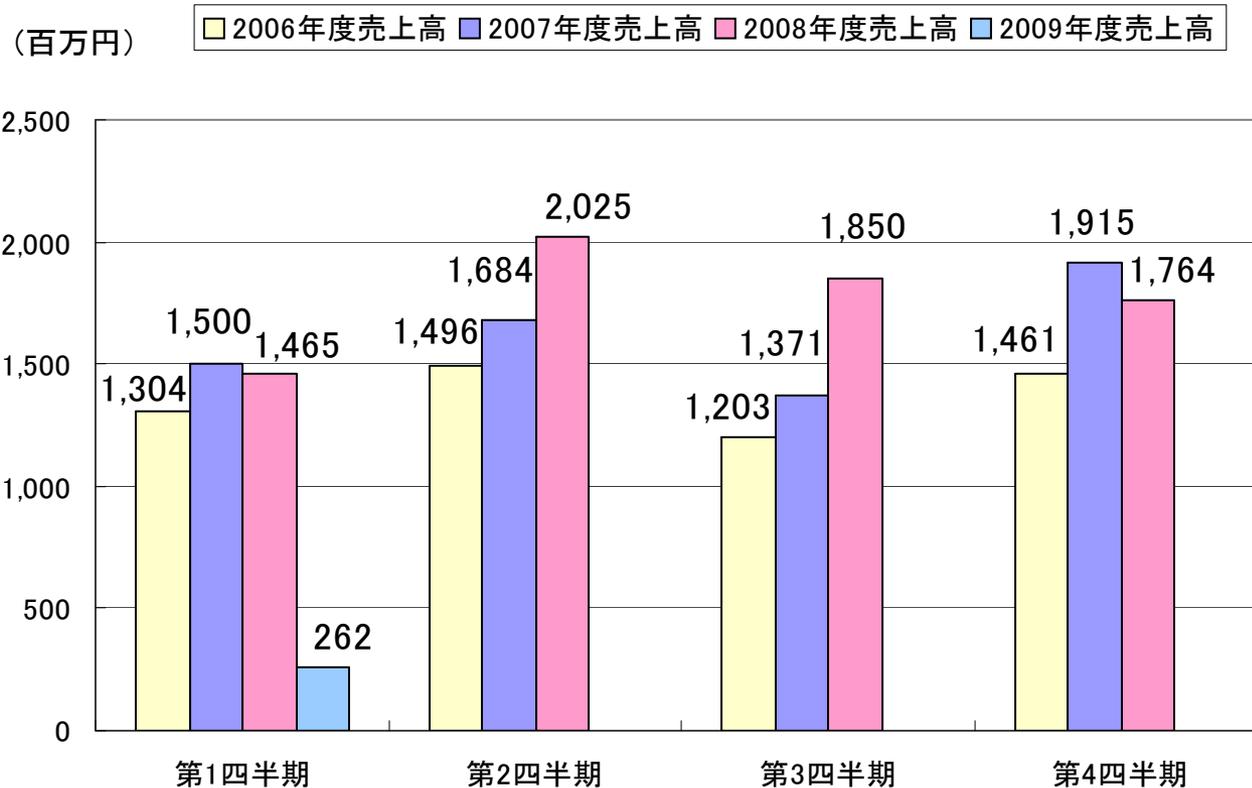
- 昨年度後半からの受注減少を受け、業績は大きく後退
 - 売上高 前年比 82.1%減の262百万円
 - 営業損失 249百万円(前年同期 163百万円の利益)
 - 経常損失 261百万円(前年同期 157百万円の利益)

- 受注: 厳しい受注環境下でも健闘
 - 受注 前年比 88.1%減の180百万円
 - ⇒ 景況悪化による需要先の投資計画の見直しが影響

損益計算書(P/L)

(百万円)	2008年度 第1四半期	2009年度 第1四半期		
	実績	実績	増減	対前年比
売上高	1,465	262	▲ 1,203	82.1 %減
営業利益	163	▲ 249	▲ 412	—
(売上高比率)	11.2%	—	—	—
経常利益	157	▲ 261	▲ 418	—
(売上高比率)	10.7%	—	—	—
税引前利益	159	▲ 265	▲ 424	—
当期利益	78	▲ 379	▲ 457	—

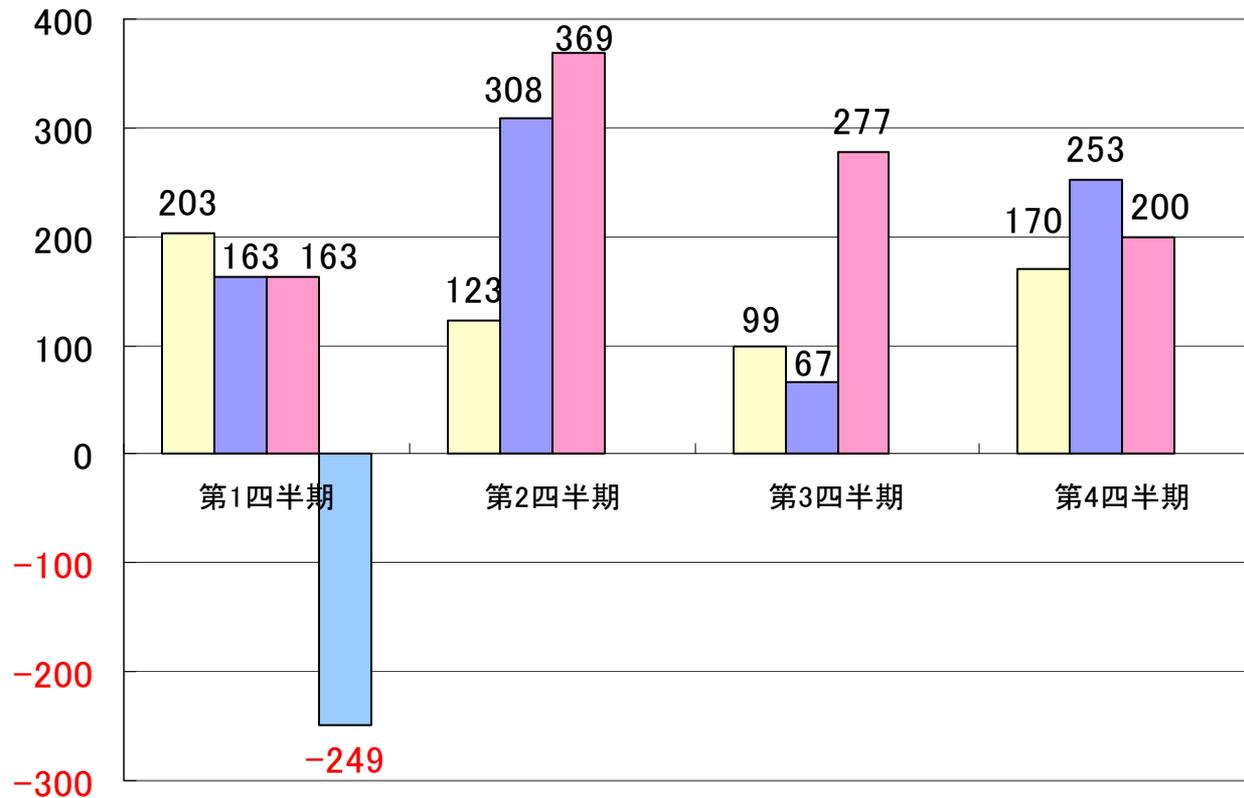
売上高(四半期別推移)



(注)2006年度・2007年度の数値につきましては未開示ですので参考値として記載しております。 6/21

営業利益(四半期別推移)

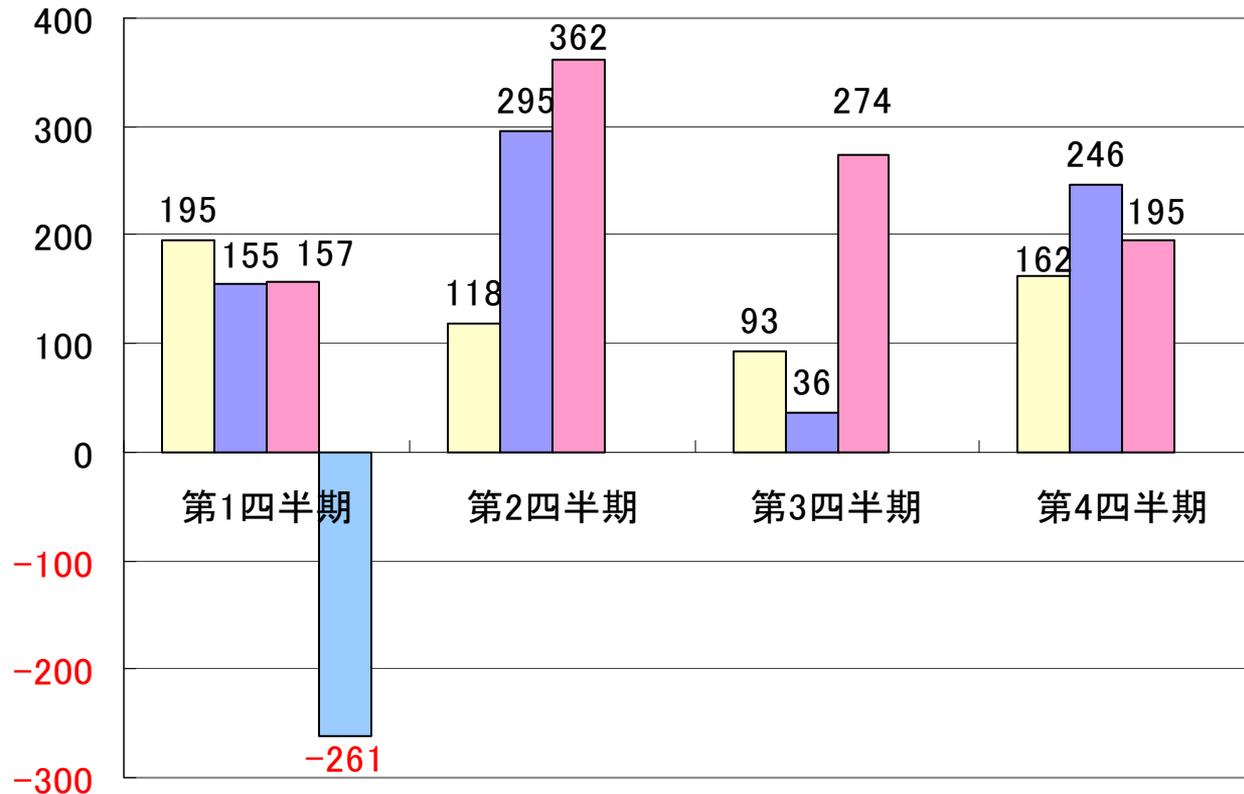
□ 2006年度営業利益 □ 2007年度営業利益 □ 2008年度営業利益 □ 2009年度営業利益



(注)2006年度・2007年度の数値につきましては未開示ですので参考値として記載しております。 7/21

經常利益(四半期別推移)

□ 2006年度經常利益 □ 2007年度經常利益 □ 2008年度經常利益 □ 2009年度經常利益



(注)2006年度・2007年度の数值につきましては未開示ですので参考値として記載しております。 8/21

原価率・販管費・株主資本比率

	2007年度 通期	2008年度 第1四半期	2008年度 通期	2009年度 第1四半期
売上高原価率 (下段は売上原価: 百万円)	74.7% 4,834	74.5% 1,092	71.7% 5,096	75.6% 198
販売管理费率 (下段は販売管理費: 百万円)	13.0% 844	14.3% 209	14.1% 999	119.7% 313
株主資本比率 (下段は株主資本: 百万円)	60.2% 2,210	62.4% 2,242	70.1% 2,665	53.8% 2,242

- 売上高原価率 ⇒ 工数低減の施策を講ずるも、売上減少に伴い原価率悪化。
- 販売管理费率 ⇒ 新工場費用の増加・研究開発費用の増加により悪化。
- 株主資本比率 ⇒ リース資金による新工場建設・利益剰余金の減少により比率低下。

貸借対照表(B/S)

(百万円)	2008年度		2009年度 第1四半期		(百万円)	2008年度		2009年度 第1四半期	
	3月31日実績		6月30日実績	増減		3月31日実績		6月30日実績	増減
資産の部					負債純資産の部				
流動資産	3,173		2,576	▲ 597	流動負債	1,126		898	▲ 228
現金及び預金	1,266		1,388	122	買掛金	48		54	6
売掛金	1,064		168	▲ 896	短期借入金	498		498	0
棚卸資産	705		920	215	製品保証引当金	107		66	▲ 41
その他	138		100	▲ 38	その他流動負債	473		280	▲ 193
固定資産	630		1,591	961	固定負債	5		1,018	1,013
建物・構築物	85		82	▲ 3	長期借入金	-		-	-
機械・設備	111		96	▲ 15	リース債務	5		953	948
土地	357		357	0	その他固定負債	-		65	65
リース資産	-		994	994	純資産	2,673		2,252	▲ 421
無形固定資産	44		41	▲ 3	株主資本	2,665		2,242	▲ 423
投資その他資産	32		21	▲ 11	新株予約権	8		10	10
資産合計	3,804		4,168	364	負債純資産合計	3,804		4,168	364

- **流動資産**: 売掛金回収は収束、開発機種^の製作により棚卸資産は増加。
- **固定資産・固定負債**: 新工場建設により約1,000百万円のインパクト。
- **資金調達**: 借入金は現状水準を堅持。新工場資金はリース調達。
- **株主資本比率**: (前期末)70.1% → 53.8%へ低下。

キャッシュフロー計算書(C/F)

(単位:百万円)	2008年度 第1四半期	2008年度 中間期	2008年度 第3四半期	2008年度 通期	2009年度 第1四半期
営業活動によるCF	203	298	706	1,293	177
投資活動によるCF	▲ 16	▲ 116	▲ 85	▲ 150	36
財務活動によるCF	▲ 138	▲ 249	▲ 249	▲ 301	▲ 47
現金および同等物の増減額	47	▲ 67	370	842	166
現金および同等物の期首残高	299	299	299	299	1,141
現金および同等物の期末残高	347	232	670	1,141	1,308

- **営業活動** ⇒ 最終損失計上するも、売掛金回収により、プラスのフロー。
- **投資活動** ⇒ 定期性預金の取り崩しにより、プラスのフロー。
- **財務活動** ⇒ リース債務返済・配当金の支払により、マイナスのフロー。

回転期間・株主資本比率

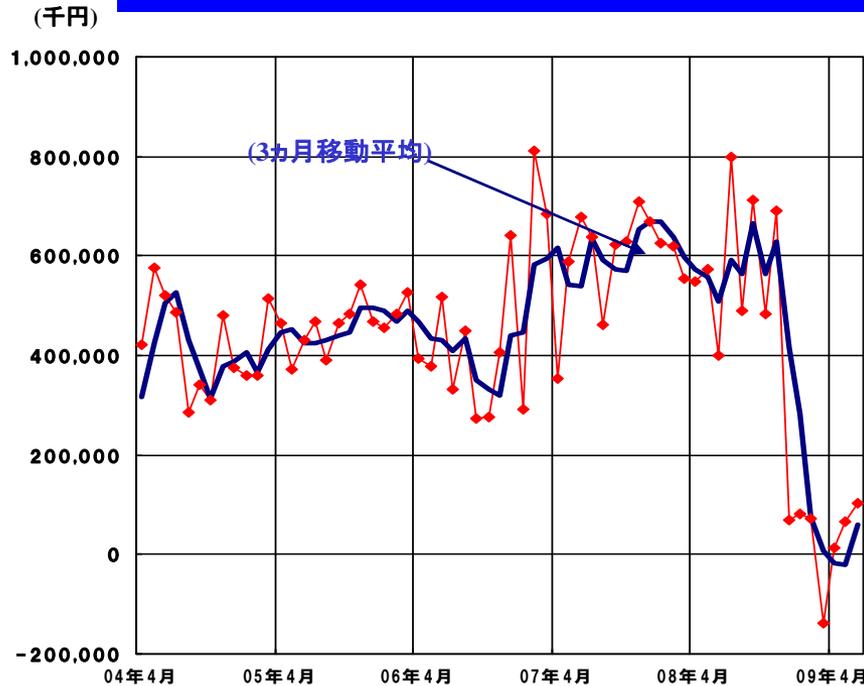
	2008年度	2009年度	
	通期	第1四半期	増減
売上債権回転期間	1.80	1.93	0.14 ヶ月
棚卸資産回転期間	1.19	10.54	9.34 ヶ月
仕入債務回転期間	0.08	0.62	0.54 ヶ月
固定資産回転期間(有形)	0.94	17.51	16.57 ヶ月
借入金回転期間	0.84	5.70	4.86 ヶ月
株主資本比率	70.1%	53.8%	-16.3 %ポイント

- 売上高の減少に伴い、各指標とも悪化。
- 棚卸資産回転期間：開発機種 of 製作に伴う仕掛品の増加が見られるが、数値悪化は主に売上減少によるもの。
- 固定資産回転比率：新工場建設に伴い有形固定資産が増加。
- 借入金回転期間：借入金は昨年度末(498百万円)より新規調達せず、現状維持。

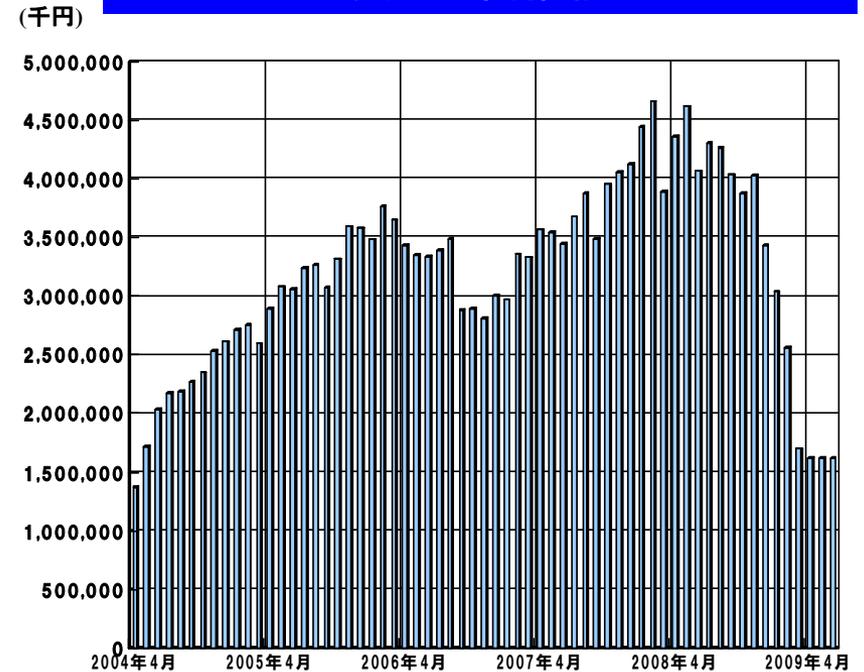
受注状況

受注高・受注残高の推移

受注推移



受注残高推移

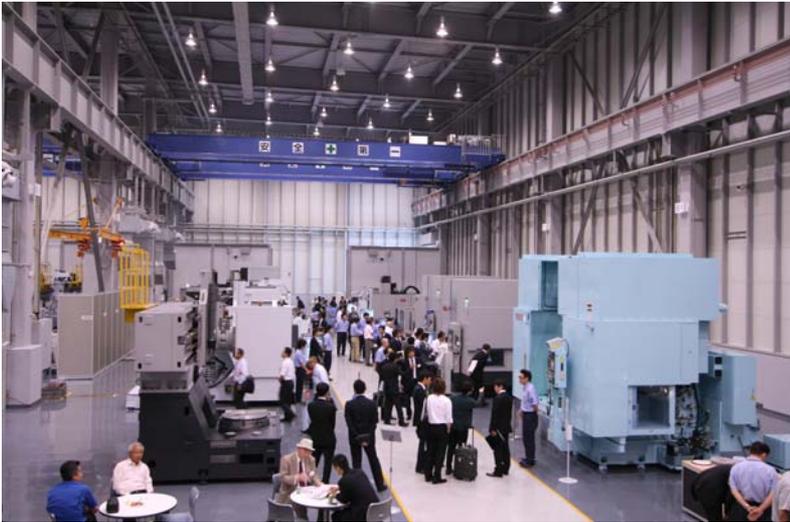


累計受注額 180百万円
2~3月に底入れし、反転攻勢。

期末受注残高 1,616百万円
受注残の減少については収束する。

トピックス

プライベートショー開催 ①



- 2009年7月
本社新工場を会場として
プライベートショーを開催。

- 当初計画を大きく上回る
1,158名ものお客様に
ご来場いただきました。



- 新機種の立形複合研削盤
NVGHシリーズの他、
当社ラインナップを展示。

- 研削加工実演を行い、
当社が提案する『**工程革新**』に
実際に触れていただきました。

プライベートショー開催 ②



- **技術セミナーの開催**も行い、新シリーズの加工技術につき理解を深めていただくとともに、お客様からのご要望も数多くいただき、大変有意義なセミナーとなりました。



- **開発試作中の大型機**もあわせて展示。今後の展開の布石としました。
- 海外からのお客様も招致し、**海外市場への展開**にも注力しています。

プライベートショー開催 ③



■ **森精機製作所との共同開催。**
前工程の立形旋盤（森精機）と後工程の立形研削盤（当社）、加工工程をトータルで提案。グループ内のシナジーを強化することができました。

■ 今後も定期的を開催する他、他社との共同開催も検討し、**ユーザーニーズ開拓・市場の活性化**を図ってまいります。

今後の展開

今後の展開

営業展開

■海外マーケット開拓

- ・ **北米市場** ⇒ シカゴ駐在のエンジニアを中心に当社技術の普及を図る。
- ・ **アジア市場** ⇒ 中国・インド地域をターゲットに建機・エネルギーに攻勢。今夏に中国・北京に営業拠点として駐在員を派遣予定。
- ・ **欧州市場** ⇒ グループ内の連携を強化し、シナジー向上を図る。

■国内営業力の強化

- ・ **プライベートショー**を起爆剤として、引合を着実に受注に結実させる。
- ・ 重厚長大・エネルギー・造船・建機など有力マーケットでの提案型営業に注力。

製品開発

■新規市場に向けた製品開発

- ・ **大型機へのシフト**: 2m超クラスの大型立形研削盤(NVGH)のシリーズ化
- ・ 主力製品NVGシリーズの基本仕様を見直し、**顧客ニーズを満たす価格設定**により、立形複合研削盤の市場拡大を図る。

お取り扱い上のご注意

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。

お問い合わせ先 株式会社太陽工機 管理部

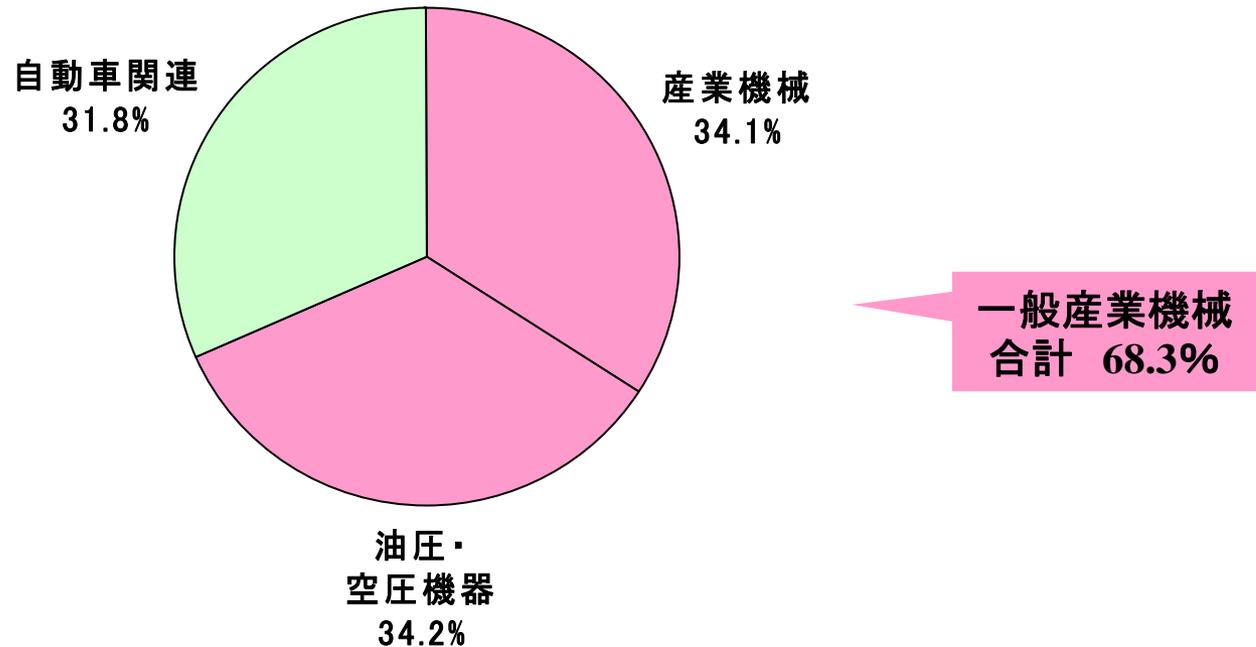
TEL : 0258-42-8808

URL : <http://www.taiyokoki.com>

参考資料

顧客業種別受注

2009年度第1四半期 業種別受注



- 軸受・建機・工作機械等、昨年度堅調に推移していた業種も、各社とも投資計画の見直しをする等現在は一時様子見の状況が続く。